

大学図書館と連携・協力・協働

— 大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）の活動を通して —

大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）

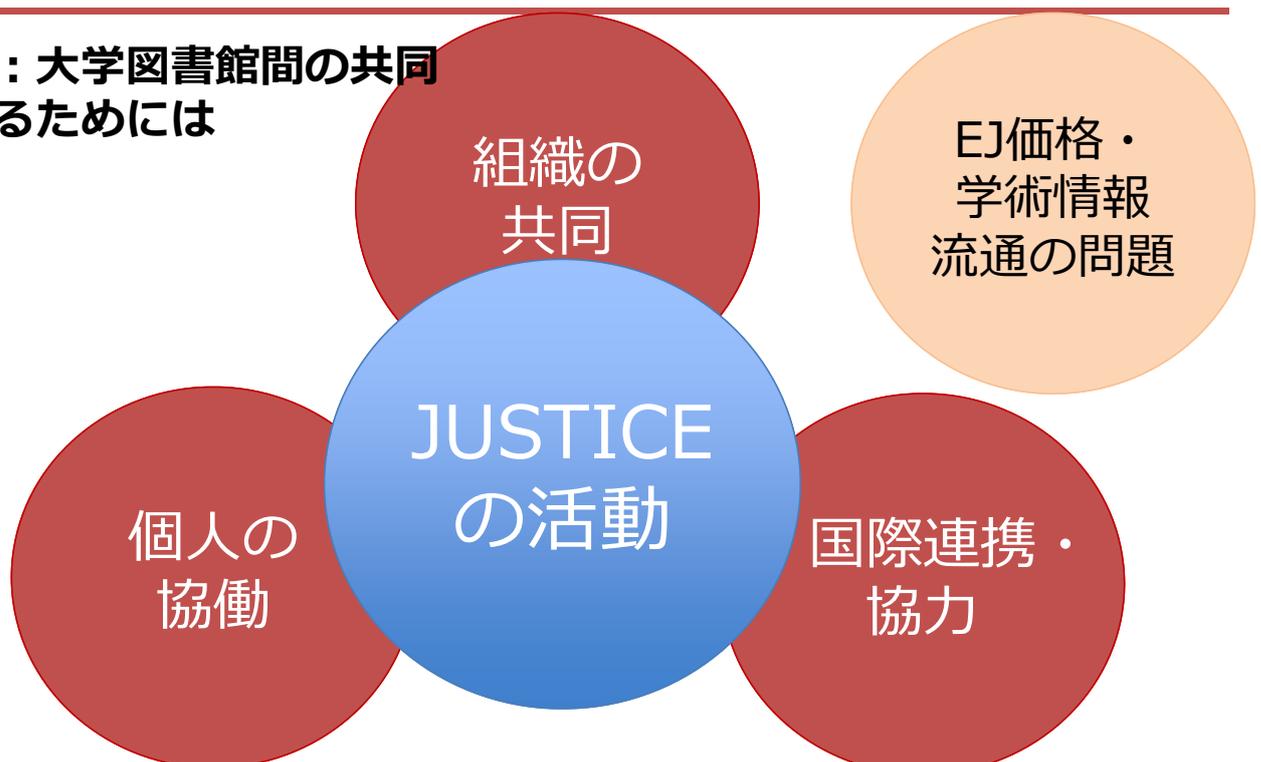
矢野 恵子

私立大学図書館協会東地区部会2016年度研修分科会 第6回

2016年12月8日（木）@共立女子大学

本日の内容

テーマ：大学図書館間の共同
を進めるためには



JUSTICEの活動を通して、大学図書館の連携・協力・協働の事例を知り、図書館職員/大学職員としての連携・協力・協働を考える。

1. 大学図書館コンソーシアム連合

- JUSTICEについて
 - ✓ JUSTICEとは
 - ✓ 運営体制
 - ✓ JUSTICEの活動
- 電子ジャーナル価格問題
 - ✓ 学術雑誌の価格高騰問題
 - ✓ 図書館/アカデミアの対応
 - コンソーシアム
 - オープンアクセス

3

JUSTICEとは

大学図書館コンソーシアム連合

Japan Alliance of **U**niversity **L**ibrary **C**onsortia for **E**-Resources

目的

電子ジャーナル等の電子リソースに係る契約、管理、提供、保存、人材育成等を通じて、わが国の学術情報基盤の整備に貢献する

設立

2011年4月1日

前身

国立大学図書館協会[JANUL]コンソーシアム
(2000年～)
+
公私立大学図書館コンソーシアム[PULC]
(2003年～ 私立、2006年～ 公私立)

会員

533館 (2016年12月1日現在)

4

運営体制

大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議
(国公立大学図書館協力委員会 + 国立情報学研究所)

運営委員会

交渉作業部会

調査作業部会

広報作業部会

協力員 (5名)

事務局

- 運営に関する基本方針を策定
- 15名 (会員館の管理職)
- 運営委員会の下で、出版社交渉、各種調査、広報・研修等の具体的な活動を実施
- 30名 (会員館の職員・管理職)
- 日常的業務を遂行
- 専任3名 (会員館からの出向)
- 国立情報学研究所(NII)に設置

5

JUSTICEの活動

1 出版社交渉を通じた電子リソースの購入・利用条件の確定

2 電子ジャーナルのバックファイル、電子コレクション等の拡充

3 電子リソースの管理システムの共同利用

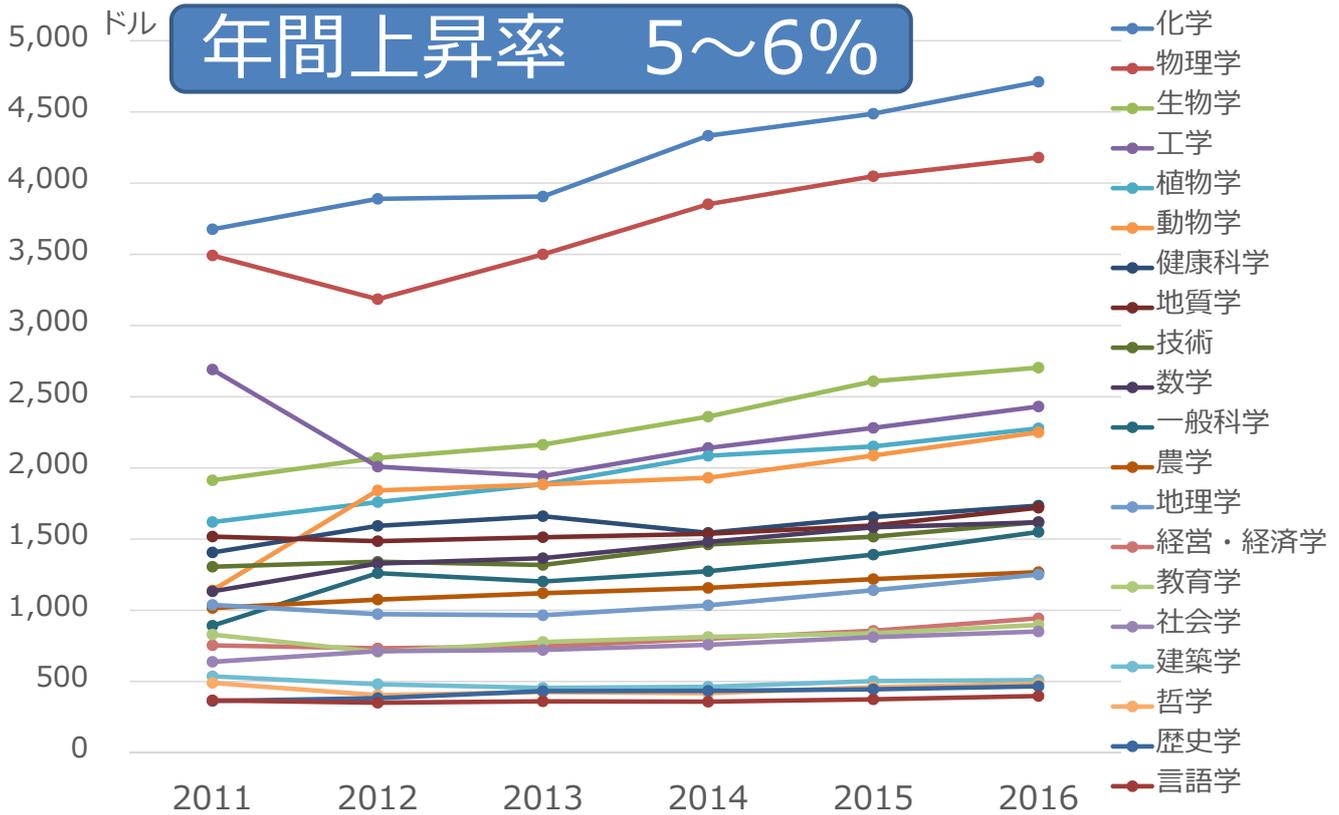
4 電子リソースの長期保存とアクセス保証

5 電子リソースに関わる図書館職員の資質向上

6 広報活動、情報収集

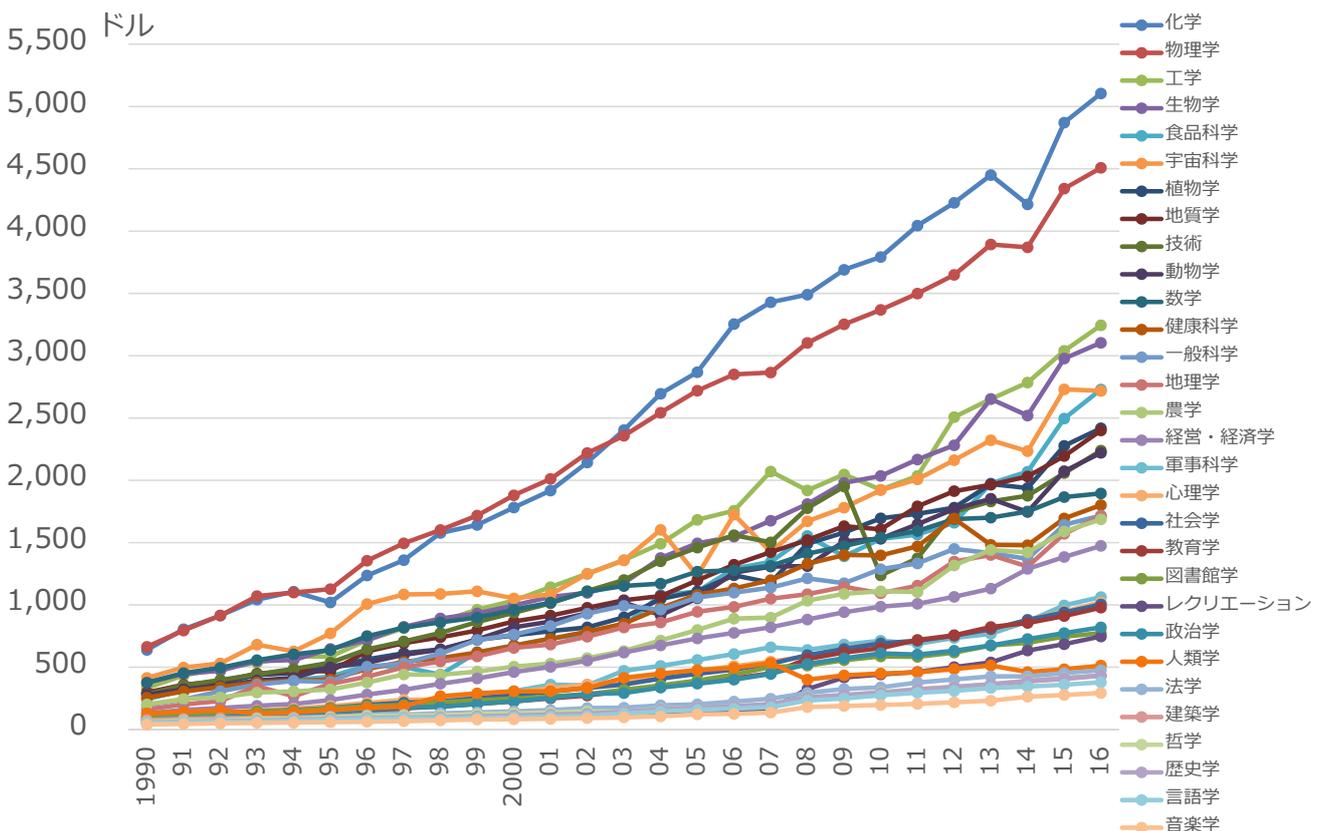
6

電子ジャーナル 平均定価



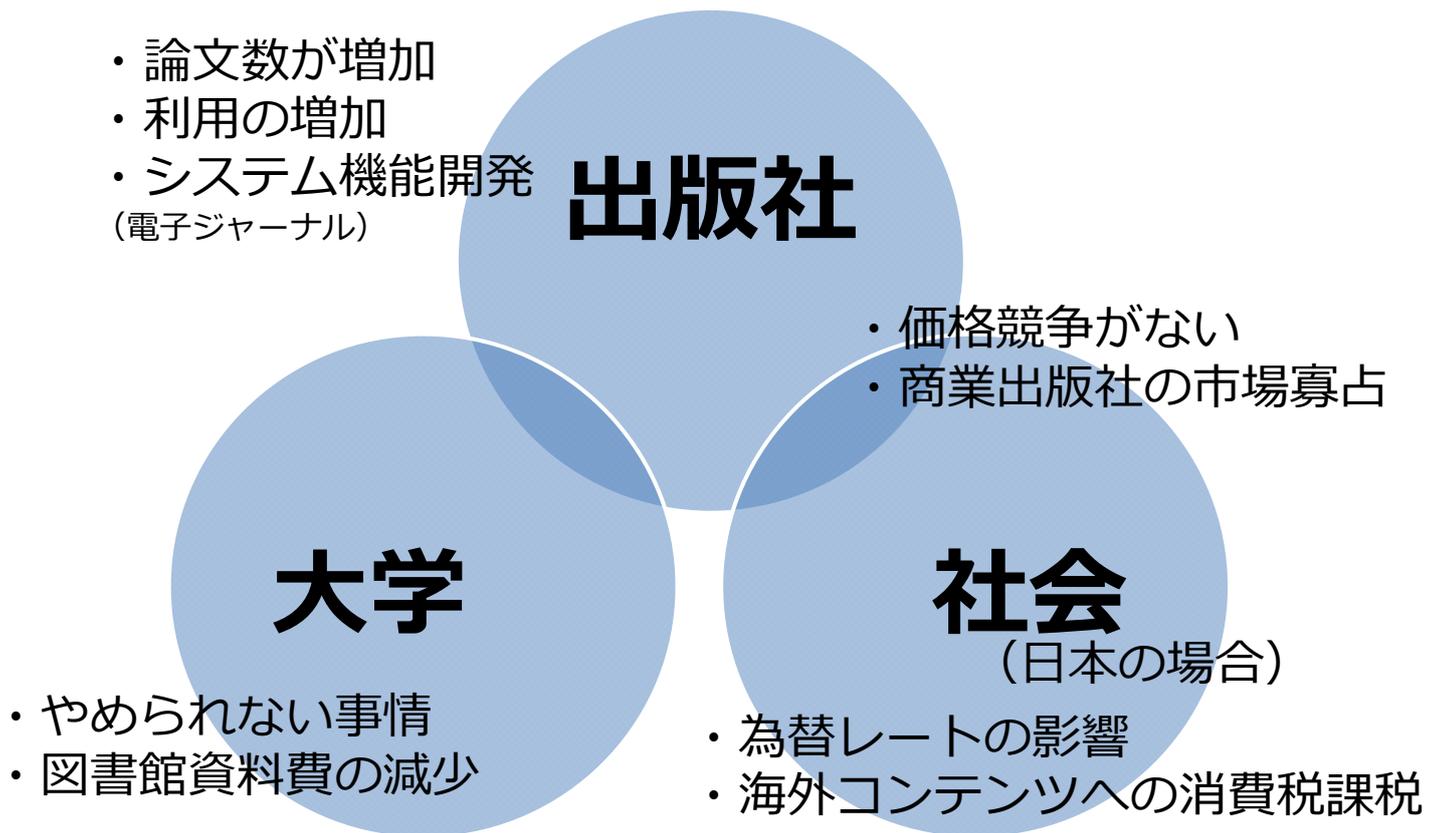
“Library Journal”に掲載された“Periodicals Price Survey”を基にJUSTICE事務局が作成

雑誌（冊子） 平均定価



“Library Journal”に掲載された“Periodicals Price Survey”を基にJUSTICE事務局が作成

学術雑誌の価格高騰（？）問題



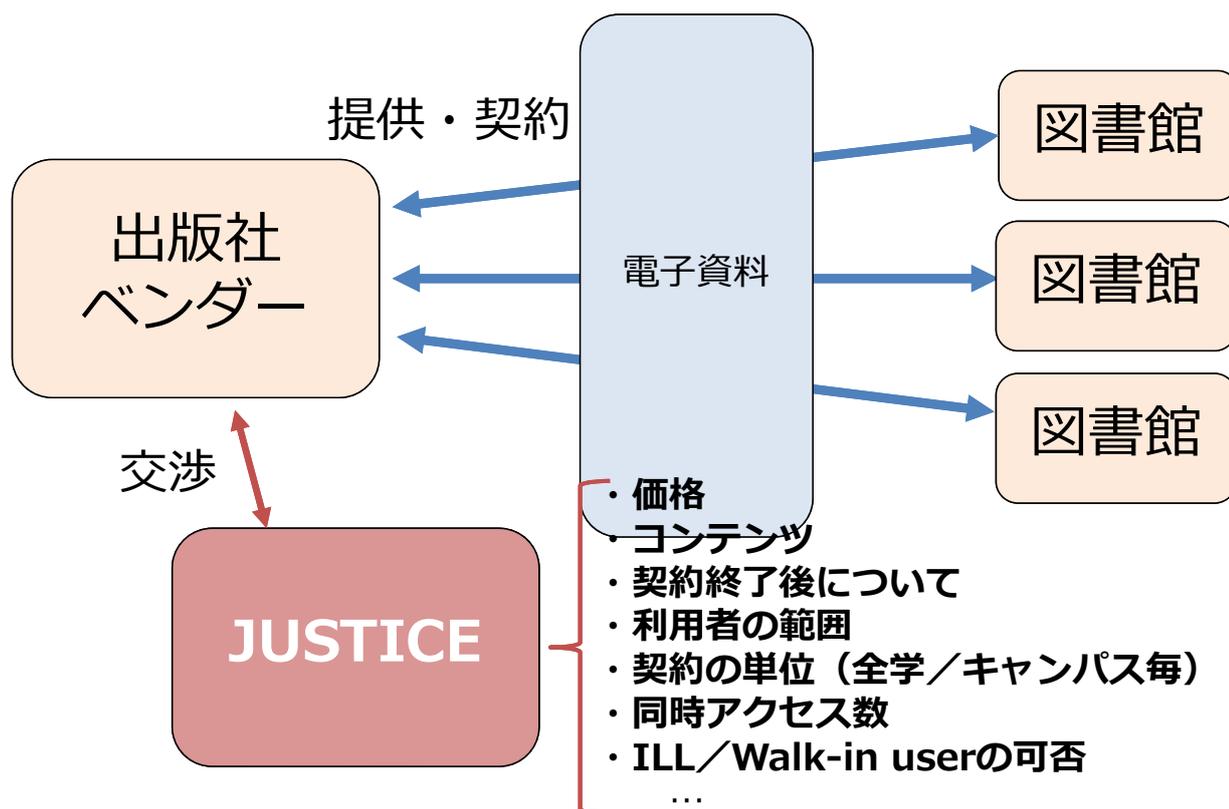
9

コンソーシアム

- コンソーシアムの誕生
 - ✓ Jisc (イギリス) 1993年
 - ✓ Couperin (フランス) 1999年
 - ✓ Lyris (アメリカ) 2009年
 - ✓ JUSTICE (日本) 2011年
 - 共同購入による購買力と交渉力の強化
 - ✓ バーゲニングパワー
 - ✓ 一元的な交渉による省力化
 - 多様なコンソーシアムの形／活動
-

10

共同購入による購買力と交渉力の強化



11

オープンアクセス

「(ピアレビューされた研究文献への)
「オープンアクセス」とは、それらの文献が、公衆に開かれたインターネット上において無料で利用可能であり、閲覧、ダウンロード、コピー、配布、印刷、検索、論文フルテキストへのリンク、インデクシングのためのクローリング、ソフトウェアへデータとして取り込み、その他合法的目的のための利用が、インターネット自体へのアクセスと不可分の障壁以外の、財政的、法的また技術的障壁なしに、誰にでも許可されることを意味する。」

ブダペスト・オープンアクセス・イニシアティヴ(BOAI) 2002年
<http://www.budapestopenaccessinitiative.org/boai-10-translations/japanese-translation-1>

12

オープンアクセスの背景

研究者

- ・研究成果の可視化
- ・社会への貢献
- ・学術情報流通における出版社支配からの脱却

図書館

- ・EJ価格問題の打開

社会

- ・公的資金投入の説明責任 (OAの義務化)
- ・ITの発展

13

オープンアクセス



Home About VSNU **Focus areas** Facts & Figures Press Publications Dutch Univer

[Subject or per

Home > Focus areas > Research > Research in the Netherlands > Open access

Print

Tweeten

Open Access

The arrival of the Internet radically changed opportunities for disseminating scientific knowledge. Digitisation has meant that potentially anyone with Internet access can benefit from new scientific insights. Open access aims to make findings from scientific research (particularly that financed through public funding) freely available online to as many people as possible. Dutch universities strongly support open access and have been working to achieve it in various ways over the past few years.



VSNU created an [E-zine](#) about Open Access. Discover how the Netherlands paved the way for Open Access; read all about the success factors and the ins & outs of the negotiations with major academic publishers:



VSNU (オランダ大学協会) ウェブサイト「オープンアクセス」

http://www.vsnu.nl/en_GB/openaccess-eng.html

14

2. 組織レベルの共同

- 大学図書館と国立情報学研究所 (NII)との連携・協力
 - ✓ 連携・協力の推進に関する協定書
 - ✓ 大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議
- 大学図書館とNIIによる電子コレクションの共同整備
 - ✓ 電子ジャーナルバックファイル
 - ✓ 人文社会科学系コンテンツ

15

大学図書館とNIIとの連携・協力

「大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立情報学研究所と国公立大学図書館協力委員会との間における連携・協力の推進に関する協定書」
締結（2010年10月13日、2016年2月23日改訂）

■目的

「我が国の大学等の教育研究機関において不可欠な学術情報の確保と発信の一層の強化を図る」

■連携・協力の推進

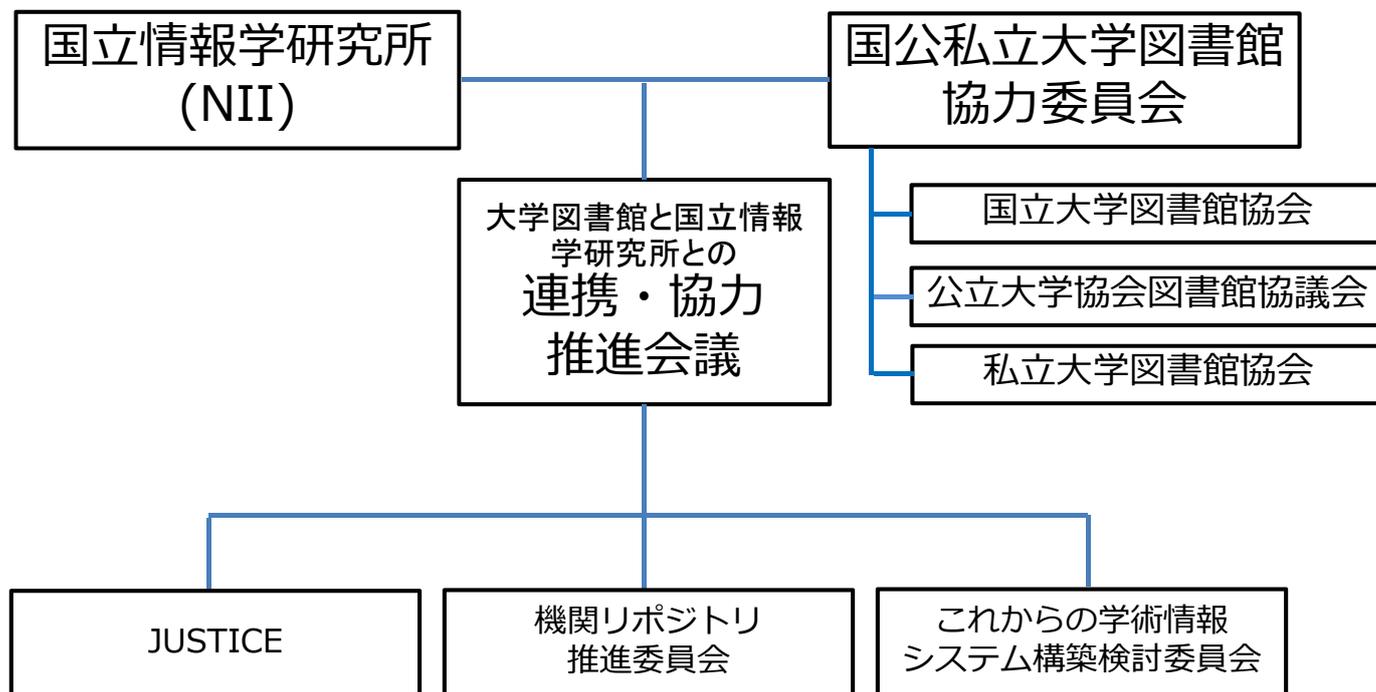
- (1) バックファイルを含む電子ジャーナル等の確保と恒久的なアクセス保証体制の整備
- (2) 機関リポジトリを通じた大学の知の発信システムの構築
- (3) 電子情報資源を含む総合目録データベースの強化
- (4) 学術情報の確保と発信に関する人材の交流と育成
- (5) 学術情報の確保と発信に関する国際連携の推進
- (6) その他本目的を達成するために必要な事項

■組織

国公立大学図書館協力委員会とNIIとの間に、連携・協力推進会議を設置

16

連携・協力推進会議



大学図書館とNIIによる電子コレクションの共同整備 ①電子ジャーナルバックファイル

Springer社 3年間特別包括提案 (2012~2014年)

バックファイル
(創刊号~1999年)

- 通常より低価格で購入
- 永続的なアクセス保証

カレント
(2000年~最新号)

- 契約価格の抑制

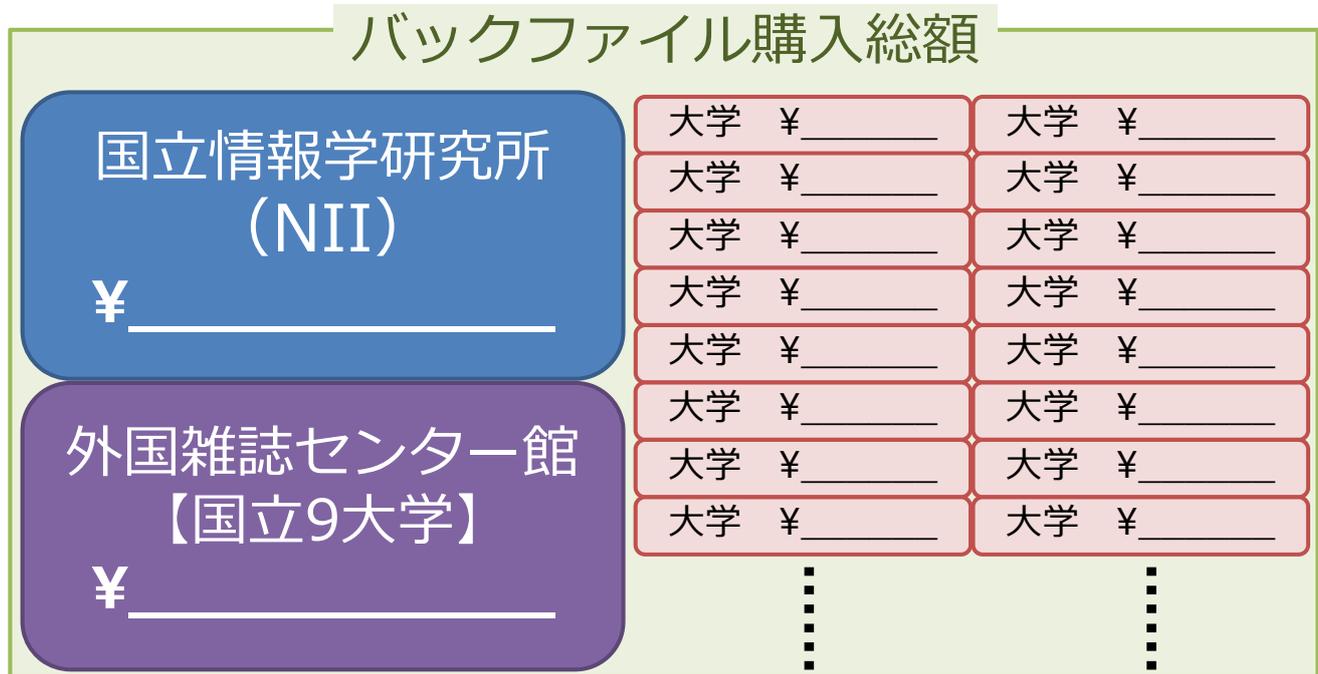


セット契約

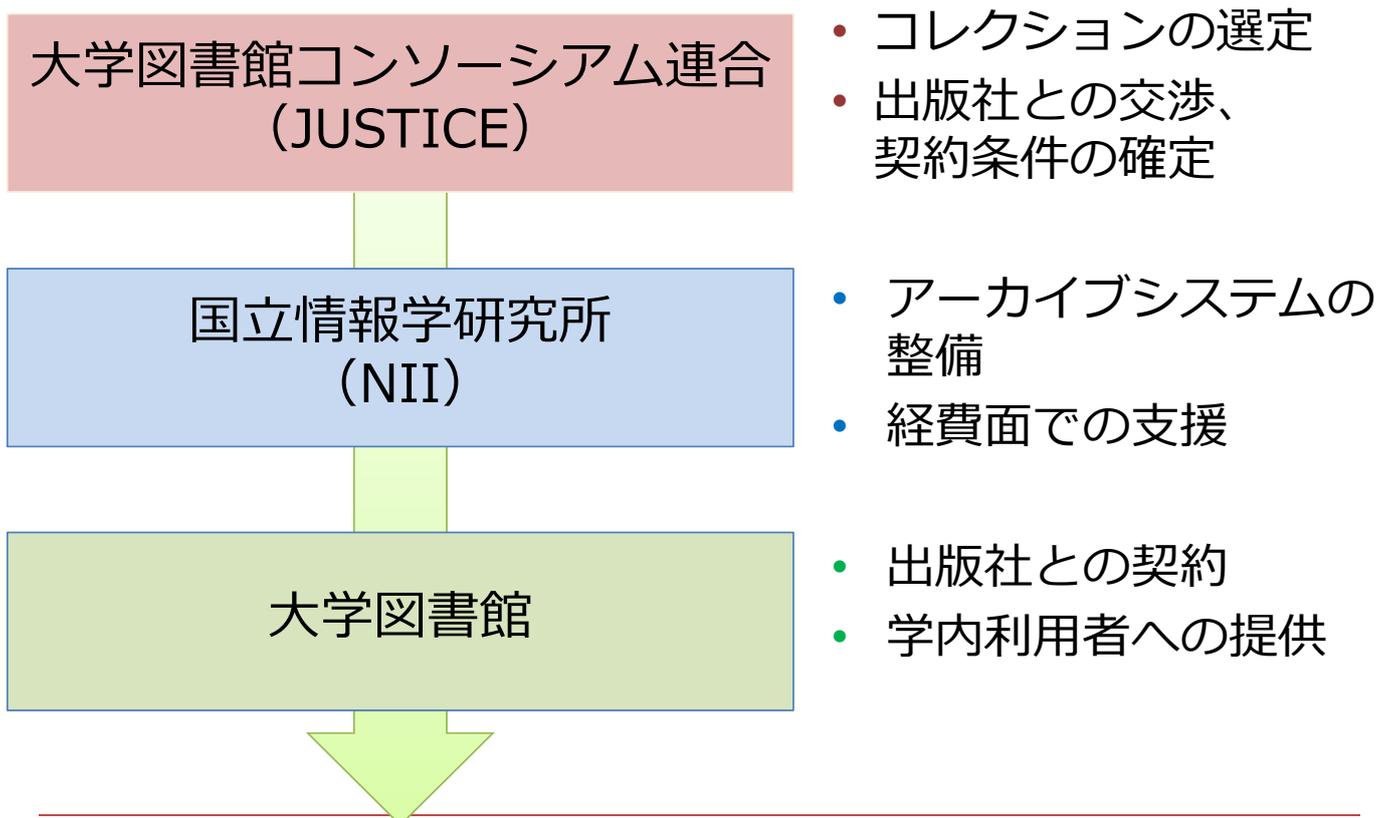
- 2015年9月より、契約機関以外の大学等教育研究機関も、NII-REOを通じてバックファイルへアクセス可
〔ナショナル・サイト・ライセンス化〕

大学図書館とNIIによる電子コレクションの共同整備 ①電子ジャーナルバックファイル

NIIと外国雑誌センター館の経費支援により
契約機関の購入額を低減



大学図書館とNIIによる電子コレクションの共同整備 ②人文社会科学系コンテンツ



共同整備による購入

大学毎の個別購入（通常）



共同整備による購入

各大学が定価額を支払う

NIIからの経費面での支援により各大学の支払額を大幅に軽減

A大学	¥ _____
B大学	¥ _____
C大学	¥ _____
D大学	¥ _____
⋮	

出版社が積算した見込み総額

A大学 ¥ _____	E大学 ¥ _____
B大学 ¥ _____	F大学 ¥ _____
C大学 ¥ _____	G大学 ¥ _____
D大学 ¥ _____	⋮
NII ¥ _____	

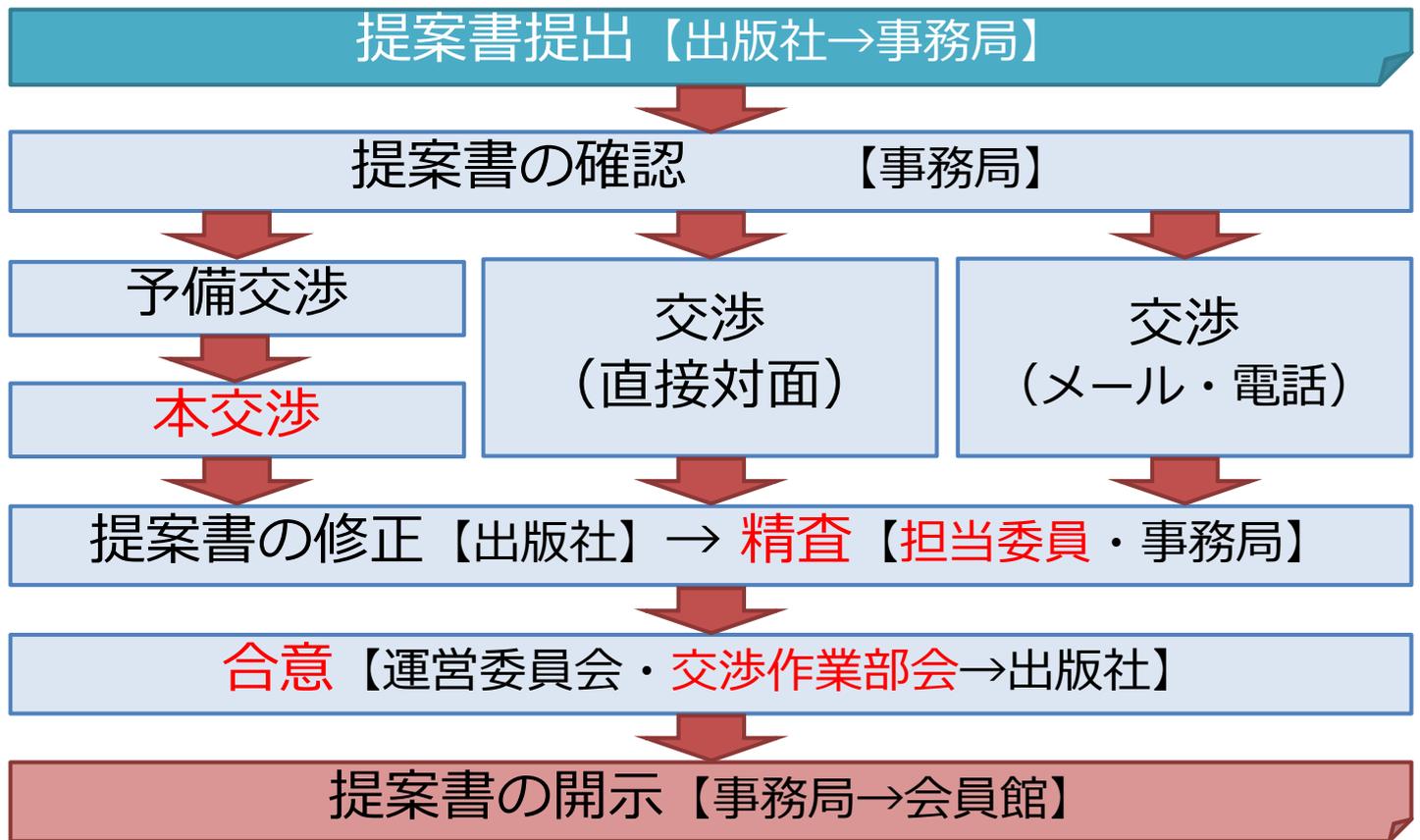
21

3. 個人レベルの協働

- JUSTICE運営委員会/作業部会/
プロジェクトチーム
 - ✓ 交渉作業部会
 - ✓ 調査作業部会
 - ✓ 広報作業部会
 - ✓ 論文公表実態調査チーム
 - ✓ 国内電子書籍導入検討チーム
- 「みんなのJUSTICE」
 - ✓ 会員館の一人一人

22

出版社交渉の過程



23

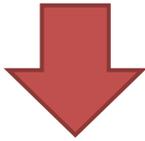
出版社交渉



24

JUSTICE契約状況調査

- 2011年度から年1回実施
- 会員館の契約状況の把握
 - ✓ 雑誌、電子資料について
 - ✓ 経費、契約タイトル数など



- ① 電子ジャーナル等の契約モデルの改善
- ② 出版社交渉のための基礎データ
- ③ コンソーシアムの現状を会員館に周知

広報誌『jusmine』

- 年4~5回発行
- JUSTICE活動報告
- 会員館／電子資料契約実務担当者への情報提供

The collage displays several issues of the 'jusmine' newsletter. Key features include:

- Issue 25 (August 2016):** Focuses on the JUSTICE electronic resource contract implementation symposium held in Matsuyama and Niigata. It reports on the symposium's success, the participation of over 100 librarians, and the presentation of a resolution to the National Diet.
- Issue 27 (November 2016):** Focuses on the 2016 annual copyright proposal explanation meeting. It details the meeting's agenda, the participation of 34 publishers, and the discussion of various proposals for electronic resource contracts.
- Issue 24 (April 2016):** Focuses on the 2016 annual JUSTICE activity plan. It outlines the organization's goals for the year, including the implementation of a new contract model and the improvement of the electronic resource contract system.

The newsletters feature a mix of text, photos of events, and diagrams. One diagram shows the '2016 Annual JUSTICE Activity Plan' with a timeline from April to December, detailing various activities and their objectives.

研修会の開催



2016年度JUSTICE電子資料契約実務研修会 in 松本
7月8日(金) @信州大学附属図書館

研修会の開催



2016年度JUSTICE電子資料契約実務研修会 in 札幌
7月14日(木) @北海道大学附属図書館

版元提案説明会

2016年9月7日（水）・8日（木）
@学術総合センター（一橋大学一橋講堂・中会議場）

版元による全体説明会

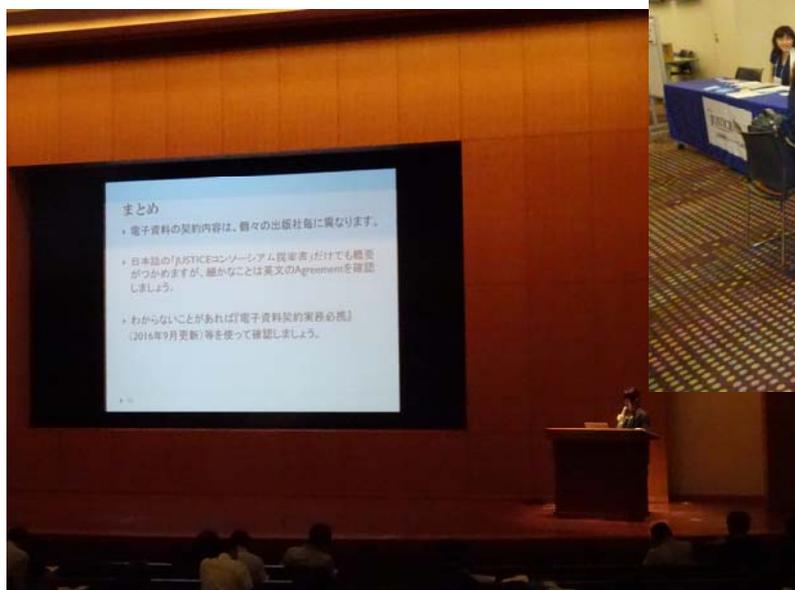


版元との個別相談

29

版元提案説明会

2016年9月7日（水）・8日（木）
@学術総合センター（一橋大学一橋講堂・中会議場）



「ヘルプデスク」

勉強会「電子資料の有効利用のために－
『電子資料契約実務必携』の活用－」

30

論文公表実態調査チーム

- 目的

- ✓ TCP (Total Cost of Publication = 購読費 + APC) の交渉を行うためのAPC支払額の把握
- ✓ 購読モデルからOAモデルへの転換の可能性の検討

- 調査方法

- ✓ 商用DBから調査分析に必要なデータを抽出して集計

- 調査期間

- ✓ 2015年9月～2017年3月 (予定)
-

31

国内電子書籍導入検討チーム

- 目的

- ✓ 国内電子書籍の大学図書館への導入を促進するため、よりよい契約モデルの構築を目指す

- 活動内容

- ✓ 出版社、ベンダーとの懇談
- ✓ 大学図書館の導入状況・要望の調査

- 活動期間

- ✓ 2016年5月～2017年3月 (予定)
-

32

みんなのJUSTICE

「電子ジャーナルをはじめとする電子リソースを取り巻く環境は、急速に変わりつつあります。こうした変化に対応すべく、JUSTICEも日々の出版社との交渉にとどまらず、少しずつその活動の範囲を拡大していく必要があります。例えば、電子書籍の扱い、オープンアクセスへの対応、持続的な人材育成などが新たな課題として浮かび上がっています。こうした課題に対応すべく、運営委員会、作業部会、事務局の面々は、最大限の努力を払う所存ではございますが、それと合わせて、JUSTICEの更なる発展には会員館の皆様のご協力が欠かせません。500を超える会員館の皆様が、「JUSTICEが私たちのために何をしてくれるのか？」ではなく、「私たちがJUSTICEのために何ができるのか？」という意識を少しでも持っていたらと、私どもコンソーシアムの運営に携わる者もたいへん勇気づけられます。これからも「みんなのJUSTICE」を旗印に掲げ、共に力を合わせて頑張っていきましょう。」

尾城孝一. 『jusmine』第19号. 2015年4月30日.

33

4. 国際レベルの連携・協力

- 国際図書館コンソーシアム連合 (ICOLC)
- 様々な国際連携・協力の形
 - ✓ CLOCKSS
 - ✓ SCOAP³
 - ✓ OA2020

34

ICOLC

- The International Coalition of Library Consortia : ICOLC (国際図書館コンソーシアム連合)



- 1996年誕生
- 世界200以上の図書館コンソーシアムが参加
- 年2回（北米、欧州）の会合
- メーリングリストによる情報共有
- 共同声明の発表

35

CLOCKSS

- CLOCKSS (Controlled Lots of Copies Keep Stuff Safe)



- デジタルコンテンツのアーカイブプロジェクト
- 出版社と図書館の共同事業
- アーカイブは地理的に離れた世界12か所の「ノード」に分散保存（NIIもノードの一つ）
- 「トリガーイベント」が発生した場合、コンテンツはOAとして公開される
- 図書館は会費によりCLOCKSSの活動を支援（日本からの参加機関：99）

36

SCOAP³

- SCOAP³(Sponsoring Consortium for Open Access Publishing in Particle)

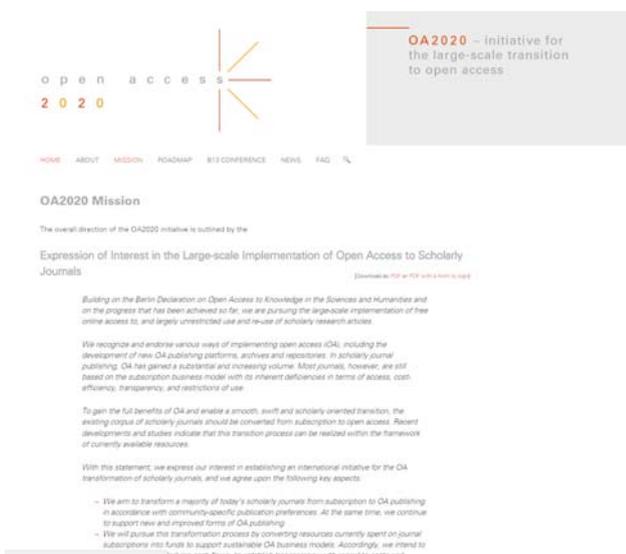


- 高エネルギー物理学分野
査読付きジャーナル論文の
OA化の実現を目指す
- 図書館の雑誌購読料を
「出版料」に振替える
- 欧州原子核研究機構（CERN）
を中心に、世界20か国以上の
研究機関、大学図書館等が
協力
- 日本からの参加機関：34

37

OA2020

- Open Access 2020



- 購読モデルからOAモデルへの
転換を図るイニシアティブ
- 世界71機関が関心表明
(2016年12月6日現在)
- JUSTICEも署名

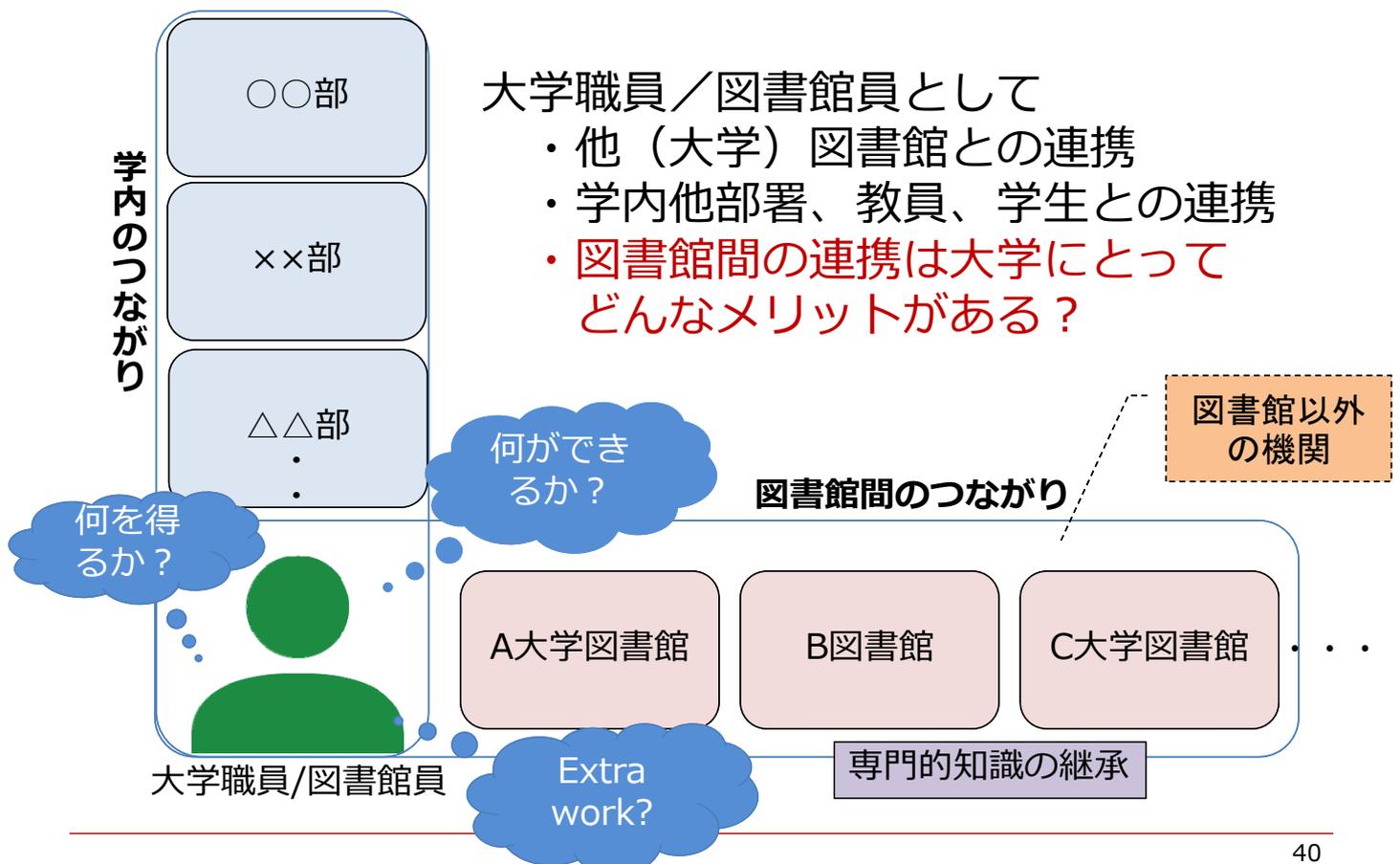
38

5. 図書館職員/大学職員として

- 横（図書館間）のつながりと縦（学内）のつながり
- 専門的知識の継承
- 連携/協力/協働に必要なこと

39

横のつながりと縦のつながり



40

Discussion Questions

1. 図書館間のつながりをすすめることは大学にとってどんなメリットがあるか？
2. 他大学図書館、学内他部署・教員とどのような連携、協働ができるか？